

サツキ 晴れ

Satsuki
bare

CONTENTS

- 01 Cure病気のおはなし
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 TOPICS
- 05 みよし市民病院を支えるチーム活動
- 06 「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策」について
- 07 看護師・看護助手を募集中!



院長
メッセージ

「感染が怖くて病院にかかれない」。患者さんのそのような不安を解消するため、すべての来院者に対して、詳細な問診と体調チェックによる「ゲートコントロール」を実施しています。リスクのある方とない方の導線を完全に分けて診察することで、院内の通常外来は、他のどの施設よりも安心できる空間をめざしました。



ご自由にお持ちください

INFORMATION

「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策」について

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言は解除されましたが、当院では、引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、下記のような対策を実施しております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

病院内への入場制限および開錠時間について

当院の正面玄関では現在、入場制限（ゲートコントロール）を行っております。

院内へ入場する際には、職員が来院目的や体調の聞き取り、体温測定などを行った上で順番にご案内をします。なお、病院玄関の平日の開錠時間は、午前8時30分からです。開錠時間までは院内への入場ができません。



面会制限（面会禁止）について

現在、入院患者さんへのご面会は原則禁止としています。やむを得ない事由により面会が必要な場合には、院内で発行する面会許可証が必要です。



新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて変更となる場合もあります。変更となる場合は、当院ホームページでご案内いたします。

来院時のお願い

来院時には、マスクの着用のほか、こまめな手洗いや手指消毒をお願いしております。

また、やむなく診察や検査の待ち時間が長くなる場合や、診療科によっては臨時休診となる場合があります。



健康診断業務再開について

新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言を受け、健康診断業務を一時停止しておりましたが、現在は健康診断の受付を再開しています。



ご協力をお願いします



看護師・看護助手を 募集中!

(常勤・非常勤)

みよし市民病院では、私たちと一緒に地域医療に貢献してくれる仲間を募集しています。まずはお問い合わせください。



随時受付しています

お問い合わせ

みよし市民病院 管理課 TEL 0561-33-3300

病院広報誌 特設サイト

サツキ
晴れ

こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと「みよし市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED plus+
病院を知ろう

コロナ禍の町を守る
小さな病院の大きな挑戦。

感染症対策特集



みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地
TEL 0561-33-3300
http://www.hospital-miyoshi.jp/

サツキ
晴れ
Satsuki
bare

発行責任者／院長 伊藤 治
発行／みよし市民病院 広報グループ
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行日／2020年7月31日

SPECIAL REPORT

コロナ禍の町を守る 小さな病院の大きな挑戦。

感染症対策特集

緊急事態宣言の最中であっても、
市民の健康は私たちが守る。



CHAPTER 01 発熱者をトリアージする 厳密なゲートコントロール

「4月21日(火)より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、病院正面玄関の入場制限(ゲートコントロール)を行います」。そんなお知らせが、みよし市民病院のホームページで発表された。その日の朝8時30分から、病院の玄関の外側に、フェイスシールドとマスクを着用した職員が立った。訪れた人に来院目的や体調の聞き取りなどを行い、検温で37℃未満であることを確認した人だけ案内する体制が始まった。院内に入ると、待合スペースの椅子は間隔をあけて座るように工夫しており、空気の流れもコントロールされ、受付ではフェイスシールドをつけた職員が対応。3密(密閉・密集・密接)を避ける工夫が随所に盛り込まれていた。

この安心・安全な体制づくりを主導したのは、感染防止対策委員会の加藤千博委員長(副院長)だ。「ゲートコントロールの目的は大きく分けて二つあります。一つは、市民の皆さんが安心して外来を受診できること。コロナ禍でも、病気の見逃しや持病の悪化を防ぐため、感染の不安なく来院できる体制を整えたいと考えました。もう一つは、入院患者さんを守ることです。当院には、慢性疾患を持つ高齢患者さんが多く入院していますから、院内にウイルスを持ち込まない対策をさらに強化する必要

CHAPTER 02 外来、入院、在宅支援という 市民病院の役割を果たす

コロナ禍であっても、市民を最大限に受け入れる。その姿勢は、紹介患者などの受け入れにおいても貫かれている。同院は高度急性期を脱した患者や在宅療養中に急変した患者を受け入れる役割を担っている。そうした依頼に対しても、断ることなく、安全に配慮した上で受け入れを続けてきた。さらに、訪問診療、訪問看護においても、(つづかない・つづらない)対策を徹底しながら、続けてきたという。この数カ月間を振り返り、「職員みんなが、本当によくやってくれました」と加藤は笑みをこぼす。「当院は122床の小さな病院ですが、感染症対策については、500床規模の病院と同じレベルのことをやってきました。少ないマンパワーでこまめの対策をするには、職員の負担が相当大きかったと思います」。限られた人数で感染予防を徹底するために、どんな戦略で挑んだのか。「優先

がありました」。(加藤)

一般に、施設の入場制限では体温37.5℃が基準だが、同院では(37℃未満)に設定しており、コントロールはかなり厳密だ。では、熱が37℃以上ある場合、受診できないのだろうか。「いえ、決してそうではありません。熱がある場合、院外のテントで、ガウンを着た医師や看護師がより詳しく病状をお伺いします。そして、感染リスクが低い方は一般の患者さんと接しないように、午後の総合初診外来を受診していただきます。反対に、感染リスクが高い方は、帰国者・接触者相談センターに紹介します」と、加藤は説明する。同院のゲートコントロールは、発熱者を断るためのものではない。安心安全を担保した上で、医療を必要とする市民を最大限受け入れていくための仕組みなのだ。

COLUMN

●同院では、病棟での院内感染予防にも力を注ぐ。集団での食事を個室に切り替えたり、リハビリテーションやレクリエーションを減らしたり、もちろん入院患者への面会制限も行ってきた。
●但し、そうした制限が引き金となり、入院患者の認知症の進行や、ADL(日常生活動作)の低下が生じている。病棟の看護師たちは声をかけを増やし、なるべく一人にしないよう配慮するなど、入院患者の心のケアに懸命に取り組んでいる。

順位をつけることですね。第一に優先したのは、入院患者さんの命を守ることです。高齢者はいったん感染すると、重症化のリスクが高い。そのため、面会制限をはじめ、ゾーニングなど病棟での感染予防対策に力を注ぎました。そちらに注力したため、健診業務などはお休みしていましたが、今は特定健診やがん検診などの健診業務も再開しています」。

同院ではすでに、新型コロナウイルス感染拡大の第2波、第3波に向けて、準備を進めている。感染防止対策委員会のメンバーは、そのためのマニュアルづくりに追われているという。「緩急をつけて対応していく方針です。今は落ち着いているので入場制限なども緩めていくことになるでしょう。でも、感染症が広がったら、速やかに制限を厳しくします。いついかなるときも、市民の健康は私たち市民病院が守るという使命を自覚し、外来、入院、在宅支援というすべての領域にわたり、気を緩めることなく感染症対策に取り組んでいきます」。(加藤)

BACK STAGE

大規模病院と同程度の 感染症対策を行う負担。

●みよし市民病院は、愛知県で一番小さな市民病院である。しかし、今回のコロナ禍にあって、大規模病院に匹敵するような厳密な感染症対策を実践してきた。
●少ない人数で日常の業務に加え、感染症対策を実施するには職員一人ひとりに非常に大きな負担がかかると同時に、費用もかかる。感染症指定病院ではない、こうした中小病院の負担をいかに支えていくか、ということも、社会が直面する大きな課題といえるだろう。



Cure 病気 のおはなし

先生、
教えて!

今回のテーマ

狭心症・心筋梗塞

心臓の血管が細くなったり
詰まったりする病気。
生活習慣病を持つ人は要注意。

動脈硬化の進行から 狭心症・心筋梗塞へ。

全身に血液を送っている心臓。心臓が休まなく働き続けるには、十分な酸素と栄養が必要です。その酸素や栄養分を与えているのが、心臓を囲むように流れる冠動脈(冠動脈)です。この血管が細くなり、血液の流れが悪くなると「狭心症」。さらに血管に血栓(血液の固まり)ができて閉塞し、血流が途絶えると「心筋梗塞」になります。これらの病気は、動脈硬化が進むことによって起こります。動脈の血管が硬くなり、内壁にコレステロールなどが沈着すると、血管が詰まりやすくなります。動脈硬化の進行を防ぐには、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を予防することが大切です。

カテーテルを用いた 血管内治療を行います。

狭心症・心筋梗塞が疑われる患者さんに対して、血液検査、心電図、胸部エックス線検査、デジタル心エコー検査などを行います。さらに詳しく調べる場合は、カテーテル(細い管)を用いた冠動脈造影検査を実施。カテーテルを血管内に通して心臓まで送り込み、冠動脈を撮影します。この検査で、冠状



動脈の状態を調べた後、必要に応じて、引き続き血管内治療を行います。これは、血管が細くなったり、詰まっている部位をバルーン(風船)で押し広げ、ステント(金属製の網)を留置する治療法です。手術に比べて、入院期間も短く、患者さんの負担も少ないことから、積極的に導入しています。さらに当院では、カテーテルを手首の動脈(橈骨動脈)から挿入することで、より負担の少ない検査・治療を行っています。



Message

胸の痛み、息苦しさなどはすぐにご相談ください。

狭心症・心筋梗塞の症状はいろいろあります。たとえば、胸の痛み、左腕や左肩の痛み、歯や顎の痛み、息苦しさ、息切れなど…。こうした自覚症状があるときは、すぐに医師の診察を受けましょう。とくに、しめつけられるような胸の痛み、動けないような胸の痛みが続くようであれば、心筋梗塞の可能性があり、一刻も早い治療が必要です。即座に救急車を呼んでください。

また、心臓に違和感はあるが、受診すべきかどうか迷う。そんなときは電話でのご相談もお受けしています。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、電話で相談される方も増えています。医師、看護師が電話で症状をお聞きして、受診した方がよいか、しばらく様子を見た方がよいかなど、適切に助言させていただきます。

内科一般・循環器科
副院長 加藤千博



熱中症予防①

マスク着用時には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を。

Care 療養支援 のおはなし

今回のテーマ

ガウンテクニック

病気を治すだけ
じゃありません。

患者さんや職員を感染症から
守るために、個人防護具の
正しい着脱を実践しています。

感染予防の基本は 手指消毒と防護具です。

新型コロナウイルスから、患者さん、そして、職員を守るために、当院ではさまざまな院内感染予防対策を行っています。

感染予防の基本は、手指の消毒です。当院では、すべての職員が正しい手順、正しいタイミングで手洗いを徹底するように日々努めています。また、職員が集まる場所では、できる限り3密(密閉・密集・密接)を避け、人と人の距離を保つよう心がけています。

こうした基本的な習慣づけに加え、当院では個人防護具の着脱について研修を繰り返し、職員の指導に力を注いでいます。

感染リスクのレベルに応じて 最適な個人防護具を着用。

病院で用いる個人防護具には、いろいろな種類があります。眼・鼻・口などの粘膜を守るためのマスクやフェースシールド、ゴーグル、N95マスク(微粒子を遮断するマスク)。頭と胴体を覆うキャップ、エプロン、ガウン。靴を覆うシューカバーなど。当院では、感染リスクのレベルに応じて、着用すべき防護具を選定。写真や注意点を添えたわかりやす

いマニュアルを作り、院内で周知徹底しています。たとえば、正面玄関では、マスク、フェイスシールドを着用。発熱者も診察する総合初診外来では、それに加え、ガウン、手袋を着用して患者さんに対応しています。

また、感染を防ぐには、着脱方法が非常に重要です。そのため、当院では、着脱の手順を動画で撮影し、研修を通じて、職員たちが正しいガウンテクニック(ガウンのつけ方・はずし方)を身につけるよう日々努力しています。



Message

第2波・第3波に備え、感染予防の訓練を続けています。



感染防止対策委員会
左) 小野田由美子(2病棟看護師)
右) 新西美奈子(外来看護師)

新型コロナウイルス感染症は、秋から冬にかけて再び感染拡大することが予想されています。また、ウイルスは市中から消えたわけではなく、市民の皆さんの行動範囲が広がれば、再び感染者が増えることも予想されています。

そこで、私たちは決して気持ちを緩めることなく、院内感染予防に取り組んでいます。たとえば、手洗いの徹底、3密を避け

る行動の呼びかけ、ガウンテクニックの訓練などは、これからも継続して行っていく計画です。いつ感染が拡大しても、質の高い院内感染予防を実践し、患者さんご家族、そして職員自身をウイルスから守れるよう備えていきます。来院される皆さんも引き続き、マスクの着用、手指消毒、人と人の距離の確保などのご協力をよろしくお願い致します。



熱中症予防②

少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所へ移動。室内に入れない場合は日陰で休みましょう。

地域医療を 知ろう

今回のおはなし

在宅療養支援病院



〈在宅療養支援病院〉
について
学びましょう

住み慣れた環境での 在宅療養生活を支援する病院です。

「ときどき入院、ほぼ在宅」と言われるように、国は今、超高齢社会を見据えた病床削減政策を進めており、今後は療養生活の場が入院中心から在宅中心に移行すると予想されています。そして、こうした在宅療養生活を支える役割を担うのが「在宅療養支援病院」です。在宅療養支援病院は200床未満(※)の病院もしくは4km以内に診療所がない病院のなかで、「在宅療養患者さんやご家族からの連絡を24時間受け付けている」、「他の医療機関や訪問看護ステーションと連携し24時間体制で往診や訪問看護を提供している」、「緊急入院に対応する病床が確保されている」、「看取りを行っている」などの条件を満たす病院が認定されます。病気の治療からケア、入院、看取りに至るまで、在宅医療に必要なトータルな機能を持っているため、医療と生活を繋ぐ拠点としての役割が期待されています。

※医療資源の少ない特別地域については280床未満。



みよし市民病院では

地域の診療所と一丸となり、在宅療養を支えています。

みよし市民病院は、みよし市訪問看護ステーションなどと連携しながら、24時間365日体制で、在宅療養に関する相談や訪問診療(往診)・訪問看護、緊急入院の受け入れ、看取りに対応しており、平成30年5月には「機能強化型在宅療養支援病院(※1)」の認可を受けています。また、同年10月からは、みよし市における在宅医療の拠点としての役割を担うため、当院単独での届出を「連携型(※2)」に変更。以降、在宅医療に取り組む診療所の先生方と協力しながら、みよし市を中心とした地域の在宅療養患者さんを支えてきました。

「住み慣れた環境で療養し、最期を迎えたい」と望む方は多いと思います。しかし、在宅療養にはさまざまな不安や負担

が伴うのも事実。さらに今後は、介護者の高齢化などの問題も加速すると予想されます。当院はこれからも、そうした不安や課題を抱える人の手助けとなり、少しでも長くご自宅で療養できるよう、支援を続けていきたいと思っています。

※1 在宅療養支援病院のなかでも、特に体制や実績の充実している病院。

※2 機能強化型在宅療養支援病院の場合、複数の医療機関が連携して届け出ることが可能。

みよし市訪問看護ステーション
主任 足立久美子



熱中症予防④

窓開放や換気扇によって換気を行う場合は、エアコンの温度設定を下げるなどの調整をしましょう。

TOPICS

予約を
受け付けて
います



6月から健康診断を再開しています

新型コロナウイルスの「緊急事態宣言」のために、当院では健康診断業務を停止していましたが、「緊急事態宣言」の解除に伴い6月より健康診断を再開しました。感染症予防対策の観点から、1日の上限人数を減らし、規模を縮小しながら実施しています(※実施内容に変更はありません)。

健康診断の結果を、健康管理に活かすことが、生活習慣病予防のためにも重要です。1年に1回は、健康診断でご自身の体をメンテナンスすることをおすすめします。



健康診断を受診される方へ

- 発熱(37.5℃以上)や咳症状、その他体調不良のある場合は受診をお断りさせていただきます。
- 受診の際には、必ずマスクを持参し着用してください。当院にマスクのご用意はございません。
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、健診業務を停止する場合がありますのであらかじめご了承ください。

健診(検診)対象の方

特定健診	みよし市在住で国民健康保険あるいは後期高齢者医療保険に加入されている方のうち、対象者の方
がん検診等	みよし市在住で健康保険の種類に関係なくがん検診の対象年齢の方(※当院ホームページ参照)
その他の健診	企業健診、入所健診、進学、就職のための健診、中国ビザ健診など

お問い合わせ

みよし市民病院 健診室受付 0561-33-3303(直通) 予約受付時間 月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時(祝日を除く)
詳しくは当院のホームページをご覧ください▶<http://www.hospital-miyoshi.jp/checkup/>

予約受付

月曜日～金曜日
午前8時30分～午後5時(祝日を除く)

- 健診(検診)は完全予約制です。
- また受診には必ず受診券と健康保険証が必要です。お手元にご用意の上、電話あるいは健診室受付にてご予約ください。

みよし市民病院を支える チーム活動

vol.2

感染対策チーム(ICT)

インフルエンザやノロウイルスなど 感染症全般の予防に努めています。

院内感染をもたらす病原菌は、新型コロナウイルスだけではなく、インフルエンザやノロウイルスも、院内集団感染に繋がる脅威です。そのため当院では以前から、感染防止対策委員会と、その下部組織として感染対策チーム(ICT)を作り、患者さんや職員の安全を守るために活動しています。チームのメンバーは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など多職種から構成。定期的にミーティングと院内ラウンドを実施し、各部署のアルコール消毒剤の使用状況をチェックするなど、問題



点の洗い出しと改善を進めています。その他、職員を対象とした勉強会にも力を注ぎ、全職員が感染症対策について正しい知識を持ち、適切な対策を実践できるようサポートしています。

ひとたび、院内集団感染が発生すれば、多くの職員が自宅待機となり、外来の縮小や救急医療・在宅医療の制限などをせざるを得なくなり、多くの市民の皆さんにご迷惑をかけてしまいます。そうならないように、当院はこれからも感染予防に対して高い意識を持ち、地道な活動を続けていきます。



熱中症予防④

体調管理も大切。バランスのよい食事やしっかりとした睡眠をとり、丈夫な体を作りましょう。